文 教 福 祉 常 任 委 員 会 記 録

令和6年8月21日（水）午後1時59分～午後2時29分（9階909会議室）

○出席委員（9名）

委員 長	川又 康彦
副委員長	高木 直人
委 員	佐藤 勢
委 員	遠藤 幸一
委 員	佐々木 優
委 員	石原洋三郎
委 員	大平 洋人
委 員	宍戸 一照
委 員	半沢 正典

○欠席委員（なし）

○市長等部局出席者（なし）

○案 件

所管事務調査「認知症対策と家族支援に関する調査」

- 1 委員長報告のまとめについて
- 2 その他

午後1時59分 開 議

（川又康彦委員長） ただいまから文教福祉常任委員会を開会いたします。

初めに、委員長報告のまとめについてを議題といたします。

前回の委員会において皆様からいただいたご意見を踏まえまして、正副委員長手元で委員長報告の案を修正いたしました。タブレットに、委員長報告の修正内容という名前でお配りいたしております。修正内容のほうご覧いただければと思います。こちらは、前回の委員会でご意見のあった部分について修正点を抜粋した内容になります。修正内容の該当箇所については、記載の頁と行のとおりです。

以下簡単に説明いたしますと、1つ目は認知症の家族支援の充実という表現を、前回のご意見の中

で、充実というのは今ある部分をさらに増やすという意味ではということで、現状はそうっていないのではないかとということで、家族の負担を軽減するための施策の実施というように修正いたします。当局説明での回答のように、先ほど申し上げたとおり、家族への直接的な支援の取組は現状ないというところを鑑みまして、充実という表現を修正するものになります。

2つ目は、提言の2つ目の構成を入れ替えるもので、修正後のとおり、①として高崎市の事例を先に書いて、その次に佐藤佐知子参考人の見解、次にファミリーサポート事業の介護版を構築すべきという提言の順番に入れ替えさせていただきます。

3つ目は、修正後のとおり、認知症サポーターを増やし、発展させとサポーターを増やす努力も加えるものになります。

4つ目、5つ目は、市内では地域包括支援センターの運営法人が認知症カフェを運営しているところも多いことから、伴走型支援拠点として整備する対象について、認知症カフェに加えて、認知症高齢者グループホームなどの既存の地域資源に設置する余地を残すという意味から、修正後の記載のように修正するものです。

6つ目は、柏市の多職種連携の事例の部分で、説明を補足するため、修正後のとおりの記載といたします。

なお、委員長報告の6ページ20行目の地域包括支援センターの人員体制からセンター業務の負担軽減を図るべきという部分について、機能不全を招くため、センター業務の負担軽減を図るという記載は市民サービスの低下につながるのではという意見がありましたが、地域包括支援センターは認知症の人や家族などの対応で業務負担が非常に大きく、実情は深刻な状況であることから、伴走型支援拠点の整備や国への提言にもつながるため、委員長報告の記載のとおり表現といたします。

修正内容についての説明は以上となります。

では次に、修正後の委員長報告案をご覧くださいと思います。今ほどご説明いたしました前回意見のあった大きな修正点については、緑色のマーカーで引いております。接続詞などのそれ以外の軽微な修正点は、黄色マーカーや薄い赤マーカーで記載しています。

ここで、委員長報告案について、黙読の時間を約5分お取りしますので、委員の皆様にご一読いただきまして、先ほど申し上げた修正後の案に対するご意見を頂戴したいと思います。また、意見書については、こちらの報告案の話合いの後に協議させていただきます。

【資料黙読】

(川又康彦委員長) それでは、提示させていただきました修正後の委員長報告案に対しましてご意見をいただきたいと思います。ご意見のある方はお述べください。

半沢委員、承りました順番の入替えということですが、そちらのほう緑の部分でこのような形でまとめさせていただきましたけれども。

(半沢正典委員) はい。

(川又康彦委員長) ありがとうございます。

あと、細かいところでも文言等で気になるところがありましたら。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(川又康彦委員長) そうしましたら、こちらのほうで委員長報告案としてまとめさせていただきますので、それぞれ会派のほうで一旦持ち帰っていただきまして、この案のほうを皆さんのほうにご提示いただきまして、会派それぞれの議員の皆さんのご意見のほうを会派ごとに取りまとめていただきたいと思います。

それでは次に、国への意見書提出についてを協議させていただきます。

前回協議した内容を基に意見書を作成いたしました。前回の協議資料からの修正内容を説明いたしますので、DD、意見書の修正内容・ポイントをご覧ください。

まず、意見書における提言項目の共通の修正点として、先般ご意見いただきました国の予算措置や財政支援について、これを拡充という表現に修正いたします。

項目の1つ目については、高齢化が進行する将来に備えという部分を追記し、国が主体的な認知症施策の取組を図るという記載に修正します。国が主体的な認知症施策の取組を図るという部分については、認知症施策は市町村においてそれぞれの地域ニーズに合わせて実施すべきですが、基本法が施行された中で、国においてもある程度統一的な認知症施策の取組を図ることを求めるという意図で記載しております。

項目の2つ目は、ポイントのとおり、処遇、配置基準の改善と人材確保のための具体的施策、これを並列的な表現に修正いたします。

項目の3つ目は、地域のニーズを把握することについては自治体の役割であるため、地域において今後ますます重要となる伴走型支援事業を活用しやすいように実情に合わせたものに制度を見直すと修正いたします。

修正内容、ポイントは以上になります。

次に、DDの意見書案をご覧くださいまして、意見書の導入文は前回の意見書協議資料を基に作成しておりまして、国への提言項目は先ほど説明のとおりとなっております。

ここで、意見書の案についても一応黙読のほうで数分お取りしたいと思いますので、委員の皆様でご一読をお願いいたします。

【資料黙読】

(川又康彦委員長) それでは、ご意見のほうございましたらよろしくご一読をお願いします。

(宍戸一照委員) この文章の中ほどの中段から下で、よって、国においては、認知症の人とその家族、この認知症の人って何だか言い回しがちょっとおかしいような気もするのだけれども、どうなのですか。認知症の人とその家族。こういう場合は、認知症の人なのか。

(大平洋人委員) どこかの市でそういう表現をしていたよね。どこだっけ。視察のときに聞いたのだっけ。あえてこういうふうに表現していたところがあったような気がする。初めて聞いた言葉ではない。の人というの。

(宍戸一照委員) 認知症の人か。

(大平洋人委員) の人ってどこだっけ。思い出せない。

(宍戸一照委員) 何だかこの言い回しとして、国において認知症の人とその家族が住み慣れた。

(大平洋人委員) どこで聞いたのだっけ。

(宍戸一照委員) ちょっと思ったものだから。

(半沢正典委員) 委員長報告も全部統一して人になっているので。

(宍戸一照委員) 人かい。

(川又康彦委員長) この文章については、この意見書の3行目についても認知症の人とその家族の負担は深刻なものとなっているという文言もありますので。

(宍戸一照委員) いいのかな。余計なことを言いました。

(川又康彦委員長) 半沢委員がおっしゃるとおり、今回のそういった内容について、認知症の人とその家族という部分入っておりますので、こちらについてはこのままで進めさせていただければと思います。

(佐藤 勢委員) 厚生労働省のホームページを見ましたけれども、その表現でも結構使われていたりもしているので。

(川又康彦委員長) ありがとうございます。宍戸委員、それでよろしいでしょうか。

(宍戸一照委員) はい。

(川又康彦委員長) そのほかございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(川又康彦委員長) それでは、意見書につきましてはその内容のほうで進めさせていただきます。

こちらについても、先ほどの委員長報告案と同様に、会派持ち帰りとしてさせていただきますので、会派確認用データについて書記のほうに配付させますので、終了後、委員長報告案、意見書案につきまして各会派内での調整のほうをお願いいたします。

次回の委員会において、会派内調整の結果を会派ごとにご報告いただくということでよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(川又康彦委員長) それでは、委員長報告と意見書につきましては以上とさせていただきます。

それでは次に、その他といたしまして、10月以降の所管事務調査の調査テーマについてを協議させていただきます。

調査テーマの協議におきましては、自由協議形式によりまして、発言許可を取らずに、自由に委員

の皆様からご意見をいただきたいと思います。

なお、自由協議の間は録音を停止させていただきまして、協議結果のまとめの際に録音を再開させていただきます。

参考資料としまして、お手元のほうに、一番最後から2つ上のところ、文教福祉常任委員会所管事務調査テーマ案一覧ということで、今回の常任委員会の所管事務調査の最初に皆さんから案出ししていただきました調査テーマのほうを一覧でまとめさせていただいております。もちろんこちらの案と、あとそれ以降もこんなことを調査してみたいというような皆様からの意見がございましたらば、本日それにつきましても協議の内容に付け加えさせていただきたいと思います。

まず、調査テーマ一覧のほうをご覧いただきたいと思います。こちらにつきましては、それぞれの委員の方から出していただいたもの。副委員長と委員長の部分については、認知症関係のもの今回調査しましたので、網かけにさせていただきました。皆さんのほうで以前出させていただいた調査テーマの項目以外に、あれから1年近くたちますので、何か新たにこういったものを検討案の内容に入れてみてはどうだろうかというようなご意見がありましたら、まずそちらを承りたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【この間自由協議】

(川又康彦委員長)では、協議させていただきました結果、調査テーマの案については、児童生徒の体力向上という部分を主眼にしながら、暑さ対策、プールの問題ですとか、体育館の問題、そういった部分での先進地を視察していくことも含めて、また佐藤委員がおっしゃった子供のケアといいましょうか、そういったところでの部分、体力の単なる向上ではなく、けが防止とか、そういった部分も含めて総合的に体を守っていくためにどういったことができるのかという部分の先進的な地域を視察していくということで福島市の教育に資するということをテーマといたしまして進めさせていただきたいと思いますが、その内容で決定させていただいてよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(川又康彦委員長)では、ご異議ございませんので、そのように進めてまいります。

最後に、その他何かございましたらお願いいたします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(川又康彦委員長)先ほどテーマのほうを話させていただきましたけれども、一応該当の所管の部局のほうに確認のほうを入れさせていただいて、ちょっとそのテーマでは難しいですよというような場合は、改めてまたちょっと違うことを考えなければならない可能性もあるということを申し添えておきます。

それでは、ないようですので、以上で文教福祉常任委員会を閉会いたします。

午後2時29分 散 会

文教福祉常任委員長

川 又 康 彦